

# 「ものづくりと数学」の研究授業がありました

【令和6年7月10日】

「ものづくりと数学」の研究授業が実施されました。

「ものづくりと数学」は、数学科3年次の学校設定科目で、「数学C」の内容である「数学的な表現の工夫」を中心に「社会生活と数学」など、数学を活用したものづくりについて体験的に学習できる内容となっています。



これまでの授業で、1～3名で自分たちが興味・関心をもったテーマについて数量的に分析し、グラフを用いて表現した作品づくりに取り組んできました。この日はその発表会が行われました。チケット価格と入場者数の推移を比較した『ユニバーサルスタジオジャパン』と『東京ディズニーランド』あなたはどっち派?』や、ゲームを分析した「モンスターストライクの売り上げと課金額の関係性」、マグロ好きが高じた「マグロ類に関する情報」など、個性豊かな作品が発表されました。また、「周囲から発見されにくい病気」の題でうつ病を表現するなど、工夫が感じられました。他のグループの発表には評価をすることもあり、生徒たちは楽しくも真剣に聞いていました。



生徒たちが数学に親しむ姿を見て、指導にあたった西尾教諭は、1つ1つの作品のよさをコメントしながら、確かな手応えを感じていました。